

125周年について思うこと

『歴史の中で』

今井 鎮雄 (神戸YMCA名誉顧問)

幕末に開国を迫られ近代国家への道を歩み始めた日本は、やがて帝国主義へと向かい、日清戦争から太平洋戦争終結に至るまで戦争の時代が続いた。

第二次大戦が終わり、敗戦国となった日本は民主主義国家への転換を迫られた。人々ははじめて聞く民主主義とはどういうものか、どのように復興を進めるかを考え続けた。私はその時代とともに生きてきた。

神戸YMCAの歴史の前半は戦争の中であつた。その間、YMCAは青年たちのために何をしたか。聖書にこのような箇所がある。

「とらえられたイエスを見ていたペテロは、周囲の人からあなたはイエスとともにおられたではないかと指摘されると、違うと否定した。二度目の否定をしたとき鶏が鳴き、イエスは振り向いてペテロを見つめた。ペテロは『きょう、鶏が鳴く前に、三度わたしの言葉を思ひ出した。そして外へ出て、激しく泣いた』(ルカ：22/61)。

「イエスがピラトの前に引き出されたとき、ピラトは集まった祭司長たちと役人と群衆に、この人は訴えられているようなことは何もしていない、むち打つてからゆるしてやることにしようと言つたと、彼らは大声を上げて詰めより、イエスを十字架につけるように要求した。そして、その声が勝つた。(ルカ：23/23)。

そのときどきの都合で決められることが人間の信念を簡単に覆がえしたり、正義や真実を超えることすらある。私はペテロとは違う。誰がそう言いきれるだろう。人間は弱く、その故に罪を重ねる自分を見つめ、心の中で泣く。イエスを十字架につけたその声は戦時にも聞こえた。心の中でそれは違うと思ひながら、私たちは口をつぐんでいった。

『神戸とYMCA百年』の編纂時、歴史家からなげYMCAが戦争に反対する立場をとらなかつたのかを厳しく問われた。現代に生きる私たちが現在の基準で過去のものを判断するのは簡単だ。私たちは間違つていたのか。もしそうなら、同じ過ちを繰り返さないためにはどうすればよいのか。人としてよりよく生きるにはどうすればよいのか。を、私たちは考え続けねばならない。

YMCAファミリーデー

5月30日、夏のような日差しの下、48家族150名が集い、ひと時を共にしました。新神戸から、道程に隠されたクイズを解きながら市ヶ原を目指しました。到着後、まずは手分けして運んだ材料・器材でカレー作り！ デザートはお父さんチームによるサモア(一度食べたならやめられない魔法のおやつ、焼いたマシュマロとチョコをクラッカーではさみます)みんな口いっぱい頬張りました。

布引の美しい新緑に心が解き放たれたようでした。4ヶ月のお子さんからおじいちゃんおばあちゃんに、リーダーやリーダーO B O G、スタッフを加えると総勢170名余りが、和気あいあいと木漏れ日の中を歩く姿は、まさに圧巻でした。

ウエルネスセンター三宮は「ファミリーYMCA」を目指します。家族や家族同士の関わりを深め、スタッフやリーダーも含めて、YMCAファミリーとしてその絆を強めていきます。We are open for all!! またお会いしましょう!!



～ご参加の方から～

『5/30(日)にファミリーデーのハイキングに参加させて頂きましたと申します。4歳の息子と友人家族で参加させて頂き、4歳児にとっては決して楽とはいえないコースでしたが、最後まで自力で歩いたことと、市ヶ原でのカレー作りなど、とても貴重な経験をさせて頂けたと感謝しております。(ちょっと感動しました(笑))

私共のグループを引率して頂きました「えびちゃんリーダー」にも、子供と一生懸命遊んで頂き感謝しております! その他の方々も、安全第一に配慮頂き、本当に親子が楽しめる1日でした。また機会があれば是非参加させて頂きます! その時撮った写真1枚だけですが一緒に送らせて頂きます。どうも有難うございました。』



ホームヘルパーの事務所10周年

現在、神戸YMCAでは神戸市中央区を中心に、高齢者世帯への自立支援をサポートすべく訪問介護事業・居宅介護支援事業を展開しています。

1999年度から続いているホームヘルパー養成講座の修了生の中から、自らの成長の為に、またYMCAらしい地域への在宅介護をサポート・推進する為の事業所設置の気運が高まり、神戸YMCAの願いと一致したことがきっかけで、2000年度の介護保険制度施行時より在宅介護サービスが始まり、10年が経ちました。

事務所には3名のケアマネジャーと3名の訪問介護サービス主任ヘルパー、そして最前線に在宅サービスを支える介護スタッフが30名が、利用者の方々のニーズに寄り添うため毎日活動を続けています。

YMCAの介護サービスでは何より全ての人が尊ばれ、そのもてる力を発揮し、いきいきとした自立生活に寄り添うことをめざしています。その為、開設当初から現在まで毎月、自発的な研修会を開催し、介護技術の研鑽はもちろんです。事例検討、ケアする側のこころの

ケア、またチームケアの大切さを学び、利用者の方の連携を深める為の学びの時をもっています。普段はスタッフ一人一人が利用者のお宅を訪問しますので、緊張もあり、密室という不安もありますが、実際には私たち以上に利用者の方々の不安があります。そのことを理解し、利用者の方々の思いに寄り添いながら、活動することを目指しています。

最近の特徴である認知症状のある方への介護や在宅での看取りをお手伝いさせて頂いたことも多くなっています。お会いしお一人の(逝去)の中で、おひとりお一人の人生の大事な部分に関わらせていただいたことを実感する毎日で、私たちがYMCAが大切にしている4つの価値(思いやり・誠実さ・尊敬心・責任感)を、介護サービスを通して提供しています。

独居の方へサタ訪問



アクアティックトレーニング実施

5月16日(日)学園都市YMCAプールで、水上安全プログラムと自己泳力の確認向上を目的にアクアティックトレーニングを実施しました。服を着て、手を縛り可動域を狭め、目隠しした状態で水深2.5mエリアへ落水、呼吸確保と助けを呼ぶ体験をしました。

「溺れる」恐怖を体験しました。泳力向上トレーニングでは、互いに叱咤激励しながら、レベルに応じて泳ぎ込むことができました。レスキューチューブでの牽引は想像以上に難しく、練習の必要を改めて実感し、また体力的な負荷もとても大きかったです。水辺の活動が増える夏を迎えるにあたって、子どもたちの大切な「いのち」を守るために、重要なトレーニングとなりました。

感謝

神戸YMCA

創立125周年協賛金

- 阪本伸彦、今田稔、山本常雄、(株)シズテック代表取締役 清水泰人、サンヨー環境(株)代表取締役 長内建佑、小野勲、加茂周治、堀江裕一、山本太郎、武田建、武田寿子、水野雄二、水野誠也、館忠之、日本YMCA子、鈴木誠也、西政弘、今西時A同盟国際青少年センター 東山荘丹羽武夫、長尾巨、若林成幸、藤村洋、佐伯一丸、中山豊美、石田由美子、島田恒、山口政紀、山口洋子、飯田義雄、小田浩、遠近芳紀、安行英文、細見俊雄、星野昌枝、松田康之 (敬称略、順不同)

【寄付金】

- 遠藤浩、兼田幸子、武田寿子、江原伯陽、清水泰人、富川和彦、中條道雄、濱浩一、今井鎮雄 (敬称略、順不同)

【第22回チャリティゴルフ大会】

- 4月22日(木) 千刈カントリー倶楽部 参加者56名 収益 294,699円 足立康幸、飯田義雄、猪飼惇二、石原雅文、今小路憲人、植田淳子、上野恭男、大田靖之、小笠原美根、奥山泰仁、尾崎伸、長内建佑、小田川哲朗、尾上尚司、柏原佳子、嘉納洋嘉納忠夫、功力正士、熊谷親啓、合田純二、佐野睦、清水泰人、杉村肇、鈴木博正、住川巧、武田寿子、多胡葉子、谷紳一、堂本将司、中尾英輔、長澤智子、中志文廣、中村忠嘉、西田勉、野呂隆、橋本正晴、濱浩一、濱美智子、広瀬一雄、堀岩夫、堀江裕一、松井隆介、松崎良治、万本敬一、水野雄二、水間麻貴子、三宅敬安行英文、山口政紀、山口洋子、山路正明、山本克己、山本常雄、吉田透、吉野泰史、吉原尚美、大久保忠彦、大久保淑子、郡美恵子、芝川英美子、下田恵美子、鳥井文倭子、松本文男、吉田恵美、米田喜美、米田准三、和田智子、和田貞雄、阪根新二、宮英喜 (敬称略、順不同)

坂口順治さん(東京YMCA 名誉会員、元立教大学教授)を奨励者にお招きして、124回目の創立記念日礼拝が5月8日(土)午後5時から三宮会館1階チャペルで行われました。「受け継がれる信仰力」と題したメッセージに、会衆は来年への思いを新たにしました。

また礼拝に先立って開催された役員・職員合同研修会では、「YMCAのこれまでとこれから」というテーマで講演くださいました。YMCA



創立記念日礼拝 役員・職員合同研修会に坂口順治さんをお招きして

Aの戦後の歩みを、カール・ロジャース・齋藤惣一・ジョン・R・モットという先人の活動を原点として振り返り、現代の課題からYMCAの今後の活動へと示唆溢れる研修会でした。

2009年度YMCA国際協力募金へのご協力ありがとうございました。

【収入】 (単位：円)

通常募金	2,688,055
指定募金	3,163,426
合計	5,851,481

【支出】 (単位：円)

日本YMCA同盟拠出金	400,000
タイワークキャンプ及びボランティア・チェンマイ派遣	1,406,500
定住外国人子ども奨学金	180,000
神戸YMCA日本語学校就学生奨学金	240,000
国際活動リーダーシップ養成	416,313
エイズ孤児支援・エイズ教育支援	200,000
オリーブの木・パレスチナ難民支援	68,000
台風9号佐用町災害支援	980,522
台湾台風8号災害支援	619,000
ハイチ大地震支援	576,000
チリ大地震支援	10,000
その他災害支援	220,000
開発・国際理解教育	137,714
事務局経費	397,432
計	5,851,481

神戸YMCAでは、多くの会員の皆さま、地域の関係者の皆さまとともに国際協力募金活動を行なっております。皆さまから寄せられました募金は、神戸YMCAが行なう国際協力、地域奉仕活動に、そして日本YMCA同盟を通して災害支援、難民支援等に用いさせていただきます。この募金を用いたプロジェクトの紹介は、HIV/AIDSプロジェクト(神戸・チェンマイYMCA協働プロジェクト)をご紹介します。



プログラムに参加する子どもたち
第2期奨学金受給生

このプロジェクトは、タイのチェンマイYMCAを通じて第20回(2003年度)タイワークキャンプ地であるメーロイライ村を対象として、「平和教育事業」と「エイズ孤児奨学金事業」を行なっています。

2004年3月、キャンプ実施のために訪れたこの村では、学校を中心にエイズ教育への取り組みが始められており、学校の先生方とともに村内のエイズ孤児宅を訪問する機会が与えられました。訪問した十数件の家々では、孤児となった子どもたちを取り巻く環境を知り、その子どもたちとともに過ごした1週間、参加者たちにとつて忘れられない体験となりました。その後、数回にわたるキャンプ地でのエイズ孤児家庭訪問

これら活動による学びから、両YMCAはともにエイズ問題に取り組むことを再確認し、子どもたちの成長とその家庭、コミュニティを支援していく「コミュニティ支援」への協働プロジェクトを立案しました。第20回ワーク地を対象地域として、子ども、若者、成人の各世代への教育と経済的負担の軽減を目的として、協働プロジェクト第1期(2005年)が開始されました。第2期(2006/2007年)を経て、第3期(2009/2010年)が今年2月に終了いたしました。現在は、この対象の村のみならず、近隣の村々からの平和教育プログラムへの参加が増え、関心の高まりを感じます。また、2004年から6年が経ち、子どもたちの理解も深まり、積極的にプロジェクトに取り組んでいます。このように継続した取り組みができています。村の人たちが主体的にこのプロジェクトに関わっているからです。また、この村のコミュニティ支援活動を支えてくださっている皆さまに感謝いたします。

ソナタ
奏鳴曲 No.43

総主事 水野雄二

見上げてごらん、夜の星を

今年もまたYMCAキャンプの季節がやってきました。キャンプ場の夜空に星がきらめき、星影さやかにキャンプファイアの火を囲む夏が近づいてきました。

昔、坂本九という歌手が「見上げてごらん、夜の星を」という唄を歌ってヒットしました。私が10歳だった時の歌ですが、なぜか昔からこの唄が大好きでした。

「見上げてごらん夜の星を、小さな星の小さな光が、ささやかな幸せを歌ってる...」50年近く前の日本は、まだそれほど豊かでもなく、「小さな光」や「ささやかな幸せ」、「名もなき星」に共感を覚える時代だったのでしょうか。

ある人がホームページにこんなことを書いていました。「思い返すと私はよく空を見上げていた。そしてそのたびに心が洗われた。私は特別な宗教を信仰しているわけではないけど、やっぱり神様みたいなのは居て、一生懸命がんばったらそれなりのご褒美がもらえるのではないかな、ということ。夕暮れ空を見上げて私は神様みたいなのに、ああ、こんな美しいものが今日も見れたよ、ありがとう、と心の中でつぶやく。そしたら、その神様みたいなのはこう言ってくれるかも知れない。おう！ そうか、よかったな、明日もようきばりや！」

私もまた困難にぶつかったとき、夜の星を見上げながら、神様みたいな何かに感謝と願いの祈りを捧げましょう。そしたら、きっとこう言ってくれるでしょう。「手をつなごう、ぼくと。追いかけてよう、夢を。二人なら苦しくなんかないさ...」

キャンプの夜は神様との対話のとき。YMCAキャンプのミッションに示された「神の恵みを知り、感謝の気持ちを養う」ということ。今年もキャンプYMCA90周年。夜の星は優しい「神様」の眼差しかも知れません。

シリーズ「くさくさいのまど」

これら活動による学びから、両YMCAはともにエイズ問題に取り組むことを再確認し、子どもたちの成長とその家庭、コミュニティを支援していく「コミュニティ支援」への協働プロジェクトを立案しました。第20回ワーク地を対象地域として、子ども、若者、成人の各世代への教育と経済的負担の軽減を目的として、協働プロジェクト第1期(2005年)が開始されました。第2期(2006/2007年)を経て、第3期(2009/2010年)が今年2月に終了いたしました。現在は、この対象の村のみならず、近隣の村々からの平和教育プログラムへの参加が増え、関心の高まりを感じます。また、2004年から6年が経ち、子どもたちの理解も深まり、積極的にプロジェクトに取り組んでいます。このように継続した取り組みができています。村の人たちが主体的にこのプロジェクトに関わっているからです。また、この村のコミュニティ支援活動を支えてくださっている皆さまに感謝いたします。

ウエルネスセンター三宮	078(241)7202
YMCAホームヘルパーの事務所	078(241)7237
ランゲージセンター	078(241)7204
専門学校	078(241)7203
西宮YMCA	0798(35)5987
三田センター	079(559)0075
余島野外活動センター	0879(62)2241
国際・奉仕センター	078(241)7204



ウエルネスセンター学園都市	078(793)7401
西神戸YMCA	078(793)7402
西神南センター	078(993)1560
須磨YMCA	078(734)0183
YMCA保育園	078(794)3901
西宮YMCA保育園	0798(35)5992
西神戸YMCA保育園	078(792)1011
YMCAちとせ幼稚園	078(732)3542
西神戸YMCA幼稚園	078(997)7705

日本YMCA同盟表彰 (敬称略)

50年継続会員賞

大塚敏子、嘉納忠夫、吉川欣一郎、盛古谷篤夫

25年継続会員賞

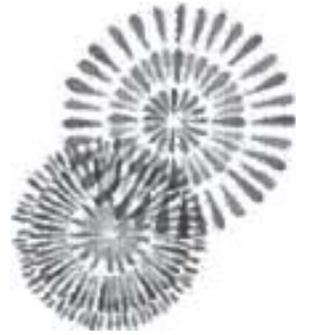
宮田純子、芹野俊郎、瀧浩一、瀧美智子、阿部俊、谷口かおる、杉林則子、末本誠、阿部信太郎、藤本貞治、鈴木博和、鈴木光子、安田絹枝、矢野玲子、戸山好枝、福田保、高野尚子、藤丸敏子、五百蔵康民、中村典子、遠藤浩、小紫富久枝、三上展、寺井智子、大崎雲平、曾我真一、森下幾子、今西努、曾少玲、菅野七津也、能谷親啓、江慧芳

25年継続勤続者賞

坂本庸秀 (本部事務局)

青少年奉仕賞

佐野信三、山岸武久、三宅幸子、大津善旦、今西時子、加藤光信、金徳化、嘉納洋、上野恭男、青柳正志、今田和子



神戸YMCAボランティア奨励賞

安積裕子さん【西宮ランチ】

普段は特別支援学校の教員としてご活躍されながらも、サポートプログラムに5年以上ボランティアとして関わってくださり、複数のプログラムに精力的に関わってくださっています。積み重ねられた経験からのメンバーとの触れ合いは、子どもたちに安心感を与え、他のボランティアの見本ともなっています。また、YMCAと学校、教育現場への架け橋となっていたり、LD学会などで研究結果も発表されたりと、子どもたちへの支援がより深まるようにご尽力されています。

草川美樹さん【西神戸ランチ】

高1の時から3年間、学童のボランティアとして活躍していただきました。子どもからの信頼も厚く、昨年は学童余島キャンプのカウンセラーもされるなど、大きな力となっていただきました。4月からは大学生になられ、西宮ランチでボランティアリーダーとして活動して下さっています。

鉄川洋志さん【ウエルネスセンター学園都市】

ウエルネスセンター学園都市の青成会員でありながら、毎週火曜日に、ラケットボールプログラムのプレーパートナーとして、昨年度からボランティアとして担当して下さっています。ご自身もラケットボールの試

合に出場されており、経験豊富な鉄川さんを目当てに毎回多くの会員が集まられています。今年度も引き続き同じ時間帯で活躍していただいています。

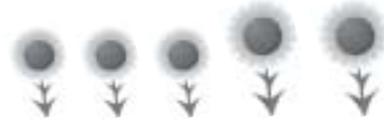
澤田衣里さん【ウエルネスセンター三宮】

野外リーダーOBであり、現在、教員として小学校で働きながらも、夏休みのコープこうべとの共同プログラム「あそびっこウイーク」、また、スキーキャンプを担っていただきました。スキーキャンプでは突然の体調不良によるリーダーの代理としてご参加くださいました。また、活動の中では、現役リーダーたちを育成することも視野に入れながら、プログラムを支えていただきました。引き続き、さまざまな活動でお支えいただいています。

山本浩史さん【三田センター】

2007年度からの3年間にわたり日常サッカークラス、野外活動、キャンプなど様々なプログラムを担っていただきました。リーダーOBとしての経験や知識を惜しみなく発揮され、多くのリーダーから慕われ、現在の三田リーダー会においても必要不可欠な存在です。メンバーや保護者からの信頼も厚く、若い講師の見本ともなっています。今年度も引き続き、その多彩な才能を発揮して下さっています。

Photo Topics



5 / 2(日)~5(水)
余島リーダートレーニングキャンプ



夏のキャンプに備え、新入生を含むボランティアリーダー91名で実施しました。

5 / 2(日)~4(火)
オール神戸リーダートレーニングキャンプ



YMCAでの活動が1年未満のリーダーを対象に実施しました。カヌー、野外料理などのスキルアップやキャンプ体験を通し、葛藤、喜び、悲しみなど一人ひとりが自分と向き合うトレーニングとなりました。

5 / 30(日)
ピアノ発表会(第15回SPRINGコンサート)三宮会館チャペルにて



幼児から大人まで約30名の出演者が、ピアノ演奏や合奏など、日頃の練習の成果を披露しました。

6 / 6(日)
チャリティスイム・フェスティバル ウエルネスセンター学園都市



延べ70名の参加者のみなさんが、プールでのさまざまなプログラムを通して、ともに楽しい時間を過ごすことができました。参加費は国際協力募金に寄付されます。

6 / 6(日)~13(日)
ウエルネスウィーク ウエルネス三宮にて



さまざまな特別プログラムを実施し、延べ257名が参加されました。また、25,499円の国際協力募金が集まりました。



個人消息

ご結婚 おめでとうございます

5/30 建内志保さん(三宮ランチ) 田中浩一朗さんと

ご逝去 謹んでお悔やみ申し上げます

5/1 小林省三様(前北九州YMCA総主事)
5/1 尾崎一政様(東京YMCA理事)
5/6 山本亮司さん(三宮ランチ)ご祖父様
5/16 中野卓磨さん(三田センター)ご祖母様